

「地域を支える調査・設計業」検討会議 第38回全体会議 概要

1 日 時 令和6年(2024年)3月12日(火)午後3時～4時30分

2 場 所 長野県土地改良会館 4階 大会議室

3 出席者 (一社)長野県測量設計業協会(以下、「測協」)
(一社)建設コンサルタンツ協会 関東支部 長野地域委員会(以下、「建コン」)
(一社)日本補償コンサルタント協会 関東支部 長野県部会(以下、「補償コン」)
長野県地質ボーリング業協会(以下、「地質協」)
アドバイザー(以下、「A d v」)
長野県(建設部、農政部、林務部、会計局、企業局)(以下、「県」。但し、建設部次長は「座長」。)

4 議 事

(1)県からの報告事項 (資料1～11まで順次説明)

○資料10 長野県優良技術者表彰制度の見直しについて

- [建コン] ・優良技術者表彰を受けることは、従業員のモチベーションにもなるが、加点の対象が狭くなってくると、会社が技術者に求めるものも考えないといけない。
・コツコツ頑張った技術者が評価できるような制度にされたい。
- [県] ・表彰制度の目的やどういうやり方が技術者を育てる、品質向上につながるのかという、そもそものところから話し合っていきたい。
・分科会の中でも現行の申請制でないやり方など、多くの意見をいただいているので、これで固定ではなく、表彰制度の在り方から引き続き意見交換していききたい。まずは今回、表彰される可能性が低い技術者の業務を軽減したい。
- [座長] ・現状、総合評価落札方式は、技術者に負荷がかかっているのではないかと感じている。担い手不足や人材確保の問題を考えると、個人よりはそれぞれの企業を評価できる方向に転換していくべきかという議論をした方が良い。
- [建コン] ・優良技術者表彰は会社としての表彰であるという認識を発注者にも持ってほしい。表彰を取ったからどこの会社に行っても生きていけるというのは違う。企業が努力して職員を育てた結果でもある。
- [測協] ・測量は優良技術者表彰してくれないということはないと思うが、測量だけだと現実的に87点を取れる業務が限られてくる。
・総合評価の加点は大規模・難業務が対象とあり、説明の中では技術提案型という話があったが、そもそも測量業務で技術提案の業務があるか。

- [県] ・測量業務での技術提案型の採用は考えにくい。昨年度・今年度では
はない。
- ・今回の見直しは、現状で表彰される可能性の低い方の業務を軽減
しようというのが一つの観点。
- ・これで固定ではなく、コツコツやるような、例えば測量、用地補
償などに対する評価が低いというご意見もいただいているので、
どんなやり方が良いか議論し、制度そのものを見直していく必要
があると思っている。
- ・業務によって評定点の平均が違うというのも、評点の方法が良い
のかも含め引き続き、皆さんと議論を続けていきたい。
- [建コン] ・84点で進めていくと、地域によっては偏る可能性がある。例えば
地域要件の1点を0.5点に緩和すると、応札者が少ない地域や偏
った応札になった場合に、他の地域からも参入できる可能性も出
てくる。そうしたバランスも考慮していただきたい。
- [県] ・制度を変えた後はモニタリングをしていくので、その結果を受け
ての対応方法は、今の提案も含めて検討させていただく。

○資料9 総合評価落札方式における工事及び業務成績評定点評価の見直しについて

- [測協] ・総合評価の評定点の見直しについて、84点というのは、環境部か
ら企業局までの委託業務全体の業務を平均するのか。
- ・平均すると小数点が出てくるが、83.8点とか83.9点は84点にな
るのかを確認したい。
- [県] ・平均点は業種ごと、設計業務であればコンサルタント業務の平均、
測量であれば測量の平均で判断する。
- ・また、小数点以下第3位を四捨五入している。
- ・今回の見直しは企業に対しての評価が競争になっていないという
ことで企業評価の部分を対象としている。個人の評価はまだ競争
性があるので現状どおり。
- ・今後の応札者の状況を見ながら、偏りがあるようであれば、また
相談させていただきたい。

○資料7 建設部におけるDXの取組について

- [測協] ・砂防施設点検は全てにおいてUAVを使うというものではないと
思う。DXでやらない砂防施設点検の発注の見通しは。
- [県] ・実証実験をやったからの話になるので、有効性が確認されてから、
皆さんと話し合いをしながら、やり方を見直していく方向。少な
くとも来年度はやってみて、妥当性の検証をする段階。
- [測協] ・他の施設の点検も従来どおり、目視で点検しなければならないも
のもあると思うが、他の施設も同じということによいか。

- [県] ・ 5年ごとの法定点検で橋梁などやっているが、これも目視点検と言われているが、いろいろと技術も出ているので、見れないところはそうした技術を取り入れながらやっていく。
- [測協] ・ 令和6年度からの予定としては砂防施設点検は特に発注はないと思ってよいか。
- [県] ・ 砂防の発注予定は、確認して何かしらの形でお答えさせていただく。
- [座長] ・ 砂防施設の点検は施設数が2万近くあり、なおかつ簡単に現場に行けないところもあるので、UAVを使ってしっかり点検できるかをこれから検証していく。
 ・ 現場に行ってみ視ではなく、UAVで点検できるというのが一番だが、もう少し検証しないと本格的な運用にはならないと思う。
 ・ トンネル等、他の施設も含め、これから人が少なくなってくる中で、出来るだけ効率的にできるようにしていきたい。

○資料8 受注希望型競争入札の実施状況について

- [建コン] ・ 感覚的にも令和5年の下半期、受注が少ないと感じていて、資料でも発注件数・落札総額とも減っている。何か特別な事情があれば教えていただきたい。
- [県] ・ 県予算そのものは例年並み、補正予算も11月に計上し、昨年並みに確保できている状態。
 ・ 補正予算分は3月までに公告するという目標を定めてあるので、例えば令和4年度は1月から3月の部分の発注件数が増えており令和5年度もそうなるのではないかと見込んでいる。
 ・ 技術者不足もあって、不調不落対策の一つで、ロットを大きくしていることから、発注件数は減少していると考えている。

(2) 分科会の報告事項 (各分科会会長から説明)

○技術・経営環境分科会報告

- [県] ・ 補償コンサルタント業務の成績評価は、今まで測量の評価を準用していた。評定点が伸びない根本的な原因として、補償コンサルタント業務自体が評価の対象になっていなかったということが明確なので、これについては4月から見直したい。

○危機管理分科会報告

- [座長] ・ 引き続き、一緒に検討をお願いしたい。

(3) まとめ

[Adv]

- ・優良技術者表彰は技術者にとって励みになるもの。
- ・できる社員に業務が集中するので、ましてや3Dが入ってくると、データ入力だけでも大変。その辺を含めてうまく考えていただきたい。
- ・総合評価における問題の一つは、新規参入がしにくいこと。新規参入についてどう打開するか、いろんな形を模索している公共団体もある。
- ・DXについては、リスクリングの補助金が大幅に増額されるという話を聞いた。工事分野でも進めていかなければならなくなるだろうし、メタバース、VR、AR、IOT、ICTや、RTKなど、これから学んでいくのは大変だが、県も企画しているようだし、教育委員会が加わって、ジュニアICTリーダー研修会をやったりしているところもある。

[県]

- ・いかに社内に人材を育て、業務負担を平準化するかが重要。
- ・本日、令和6年度当初予算が成立した。平準化にも配慮しつつ、計画的かつ着実に予算を執行していくのでご協力をお願いします。
- ・総合評価落札方式における業務成績評定点 評価の見直しや、優良技術者表彰制度の申請基準の見直しなどの制度改正について、様々なご意見があるのは承知しているが、現在の状況を踏まえて県として見直すことを判断し、令和6年4月から適用させていただく。
- ・制度改正後も状況を見ながら引き続き、皆様と意見交換をして、よりよい方向に進めていきたい。
- ・3月から適用する設計業務委託等の技術者単価については、12年連続の引き上げで、5.5%の引き上げとなった。経営者の皆様には是非とも賃上げ、給料アップをお願いしたい。
- ・県としては単価の上昇、物価高騰に伴って、事業量が目減りしないように国へも要望しながら予算の確保に努めていきたい。
- ・地域を支える調査・設計業が魅力ある業界として、持続的に発展できるよう、今後とも皆さんと意見交換しながら担い手確保や生産性向上・働き方改革に取り組んでいきたい。